

こうほう 佐倉

sakura city



2004 平成16年 2.1 No.942

主な内容 CONTENTS

特集・旧川崎銀行佐倉支店	1～3
ごみ収集とリサイクル	4
確定申告、市・県民税申告	5
保健・生活習慣病を防ぐために	7
まちネタ・井野長割遺跡	11
佐倉いきいき健康まつり	12

《写真》現在の佐倉市庁舎

佐倉を見つめ続けてきた建物

旧川崎銀行佐倉支店（県指定有形文化財）



新町通りに佇む煉瓦造りの建物、旧川崎銀行佐倉支店。
現在では市立美術館エントランスホールとして利用されているこの建物は、佐倉市が誕生したとき、市役所庁舎でした。
佐倉が市になって50年。佐倉市の歴史とともに歩んできたこの建物の変遷を辿ります。

昭和30年3月ごろの旧川崎銀行佐倉支店
周囲の家は低かったため、目立つ建物でした。
現在の旧川崎銀行佐倉支店

「旧川崎銀行佐倉支店」という建物

設計者 矢部又吉
煉瓦造り2階建て（2階部分吹き抜け）、銅板葺き、外壁タイル張りのこの建物は、大正7年、川崎銀行（現在の東京三菱銀行）の佐倉支店として建設されました。

建てられたのは大正6年と考えられてきましたが、新町資料館のための改修工事の際に見つかった棟札により、大正7年の建築と判明しました。また、設計者は矢部又吉という人物であったこともわかりました。

矢部又吉は、明治21年横浜に生まれました。建築を学んだ矢部は、明治建築界の三巨頭のひとりと呼ばれる妻木頼黄に師事した後、約5年間ドイツに留学しました。帰国後は、旧川崎銀行本支店をはじめ、銀行建築を数多く手がけました。県内にも、旧川崎銀行千葉支店（千葉市美術館「さや堂」）、三菱銀行佐原支店（佐原市三菱館）など、矢部の設計した建築物が残っています（下写真）。



矢部 又吉
〈明治21年（1888）～昭和16年（1941）〉



矢部又吉の名が記された棟札
屋根は銅板葺き



旧川崎銀行佐倉支店のあゆみ

早くから佐倉に進出した銀行川崎銀行は、右の棟札にも名が記されている川崎八右衛門が明治7年に川崎組を組織したのが始まりです。明治13年の国立銀行条令により、川崎銀行となり、同年、佐倉に支店（当時出張所）を置いたようです。
川崎銀行は、昭和2年に第百銀行と合併して川崎第百銀行となり、昭和11年に名称を第百銀行に変更しました。その後、昭和18年に三菱銀行と合併し、名称も三菱銀行になりました。

旧川崎銀行佐倉支店関連年表

大正7年（1918）	旧川崎銀行佐倉支店が建築される
昭和12年（1937）	佐倉町に売却され、佐倉町役場となる
29年（1954）	市制施行により、建物は佐倉市役所庁舎に
46年（1971）	佐倉市庁舎が海隣寺町に移転、建物は中央公民館として利用
51年（1976）	中央公民館が現在の錦木町に移転、建物は市立図書館に
61年（1986）	市立図書館が58年に現在の場所に移転、建物は改修の後、新町資料館として利用
平成3年（1991）	県指定有形文化財（建造物）に指定
平成6年（1994）	市立美術館が完成、建物は美術館のエントランスホールに

昭和12年、佐倉町がこの建物を購入し、佐倉町役場となりました。昭和29年の市制施行以後も、引き続き市役所庁舎として利用されました。
昭和46年、市役所が海隣寺町に移転（現在の庁舎）。建物は中央公民館となり、51年に公民館が現在の場所に移転した後、佐倉市立図書館として利用されました。
昭和58年、佐倉郵便局が現在の場所に移転し、その建物に図書館が移りました。これにより旧川崎銀行佐倉支店の建物は閉鎖されましたが、改修工事を経て、昭和61年に新町資料館としてオープン。城下町の祭礼や町の様子などを展示する施設として、平成4年まで一般公開されました。
そして平成6年、市立美術館の開館に伴って、旧川崎銀行佐倉支店は建築当時の姿に戻さ



2階部分が吹き抜けになっていて現在の旧川崎銀行佐倉支店内部

れ、美術館のエントランスホールとして活用されています。このように様々な変遷を辿ってきた旧川崎銀行佐倉支店は、ずっと佐倉を見守ってきたのです。



三菱銀行佐原支店
旧本館（佐原市三菱館）

現在では、住民ボランティアの拠点として利用されている。大正3年建築。
（写真：佐原市都市開発室）



旧川崎銀行千葉支店
（千葉市美術館「さや堂」）

千葉市美術館・千葉市中央区役所建物の1階に、新しい建物に覆われるように保存されている。昭和2年建築。
（写真：千葉市広報課）

時代ごとに見る旧川崎銀行佐倉支店

市役所庁舎時代

昭和29年

～46年



旧庁舎の窓口風景
奥に金庫らしきものが見えることから、出納室の窓口だと思われます。

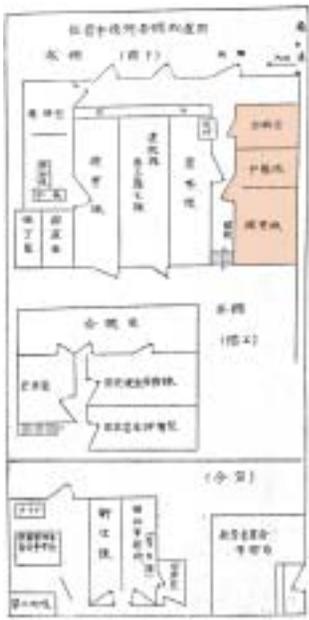
佐倉市誕生
今から50年前の昭和29年3月31日、佐倉町・白井町・根郷村・和田村・弥富村・志津村の6町村が合併して、佐倉市が誕生しました。
当時佐倉町役場として使われていた旧川崎銀行佐倉支店は、佐倉市役所となりました。この建物には、出納室、戸籍課、税務課が置かれていました。
2階部分を作る
旧川崎銀行佐倉支店は建築当初から2階部分が吹き抜けの、



旧庁舎の入口
建物右側から入ったところに入口がありました。



旧市庁舎での執務風景
冷房などはなく、夏は相当暑かったようです。
旧庁舎の後ろに増築した建物
(写真は昭和53年 図書館時代のもの)



佐倉市役所各課配置図（昭和29年8月15日発行「佐倉市政だより」第2号より）
色部分が旧川崎銀行佐倉支店で、出納室・戸籍課・税務課が入っていたことがわかります。また、教育委員会や衛生課などは分室におかれ、裏新町にありました。

佐倉のシンボルだった建物

市制施行前は合併の事務を担当し、のちに収入役・助役を務めた圓城寺さんに、当時の様子を伺いました。

「佐倉市」という名前

新しい市の名前として、「印旛市」などの案が出ていたんですが、佐倉町の木倉町長（佐倉市初代市長）が、歴史ある「佐倉」の名を残したいと、他の町村を説得したんです。他の町村は診療所や道路を作ってほしいと要望していたのに対し、「佐倉町には何も作らなくていいか

ら名前だけ残してくれ」と。それで「佐倉市」に決まりました。佐倉のシンボルだった建物

佐倉町役場だった旧川崎銀行佐倉支店が佐倉市庁舎になるのはすんなりと決まりました。当時市街地といえは新町のあたりと白井の中心部くらいでしたし、旧佐倉町には官庁が集まってい



圓城寺信夫（えんじょうじ・のぶお）

昭和24年、和田村入庁。合併事務局のスタッフとして、町村合併を進めた。市制施行に伴い、昭和29年佐倉市職員に。当時は総務課所属。総務課長などを歴任し、退職後、収入役（60年～63年）、助役（63年～平成7年）を務めた。

佐倉が市になったところ、周りほとんどが平屋だったので、あの建物は立派に見えましたね。当時の佐倉のシンボリックな建物だったとも言えます。
市役所になった当初から手狭で、はじめは1階しかなかったのを2階を作ったり、分館・分室がたくさんありましたね。教育委員会は裏新町の別館とか。市民のかたにも使い勝手の悪い庁舎でした。トイレは外にあった数も少なく、男女の別もなかったものだから、トイレを使うには並ばなければならぬ状態でしたしね。それでむしろ市民の方から「恥ずかしいから庁舎を建て替えろ」と言われていました。
あの建物が残ったのは、壊すお金がなかったから（笑）。当時は古いものを保存する、という発想はあまりなかったもので、なくなってもおかしくなかった。今考えればお金がなかったのが幸いしましたね。

中央公民館時代

昭和46年～51年



「佐倉市政だより」第240号
(昭和49年12月1日発行)
公民館祭が行われたときの様子です。

「中央公民館のあゆみ」
(昭和50年発行)
表紙には旧川崎銀行佐倉支店の写真が。



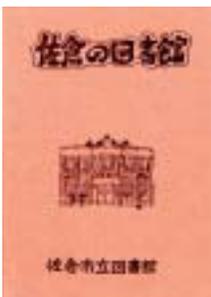
市制施行時は東福寺（現在のさくら苑へ鶴木町へのあたり）を利用して佐倉市公民館がおかれ（昭和40年に中央公民館に改称）、旧町村ごとに分館が設置されました。
昭和46年、市役所が新庁舎に移りました。中央公民館は旧川崎銀行佐倉支店に移りました。
高齢者向けの「長寿大学」や、女性向けの講座、青年教育などが行われていたようです。
その後、旧佐倉東高校跡地に中央公民館を新築することになり、昭和51年、現在の場所へ鶴木町）になりました。

市立図書館時代

昭和51年～58年



市立図書館を紹介する「広報さくら」第294号
(昭和52年3月1日発行)



「佐倉の図書館」(昭和57年発行)
表紙に旧川崎銀行佐倉支店の絵が描かれています。

中央公民館が移転した後、昭和51年10月1日から、旧川崎銀行佐倉支店は市立図書館として活用されました。それまで、中央公民館の中に図書室はありましたが、市内に単独の図書館はありませんでした。
旧川崎銀行佐倉支店建物部分は1階が事務室と児童室、2階が資料室に利用されていました。
昭和57年発行の「佐倉の図書館」によると、開館初年度の蔵書数は1万2165冊で、貸出し登録者数は1432人、貸出総冊数は1万1988冊でしたが、昭和56年にはそれぞれ1万1773人、12万7757冊と急激に利用されるようになりました。

旧佐倉郵便局の建物を改修し、図書館が現在の場所に移転したのは、昭和58年のことです。以降、旧川崎銀行佐倉支店は約3年間の休息に入りました。

新町資料館時代



「広報さくら」第528号
（昭和61年11月1日発行）
新町資料館の開館を伝えています。

昭和61年

～平成4年

昭和61年11月2日、改修工事を終えた旧川崎銀行佐倉支店は、佐倉新町資料館として生まれ変わりました。この工事の時、棟札が発見されました。

新町資料館は、城下町の庶民の暮らしを模型や展示を通して紹介する施設でした。1階には、館の案内や、山車人形など祭りに関する資料が展示され、2階には、明治4年に書かれた「三峯山道中記図絵」のジオラマ模型や、佐倉城下の模型などが展示されました。また、佐倉を訪れたかたのため、市内見学の情報センター的な役割も果たしていました。建物の背後にあった建て増し部分は取り去られて、広場となり、彫刻「建国の雄姿」がおかれました。

新町資料館では特別展も開催され、文化財や美術品を展示する場所としても利用されましたが、この場所に市立美術館を建築することになったため、平成4年、新町資料館は閉館しました。



佐倉新町資料館オープン当時の広場中央に彫刻「建国の雄姿」（北村西望作）がおかれていました。この彫刻は、現在、岩名運動公園内にあります。

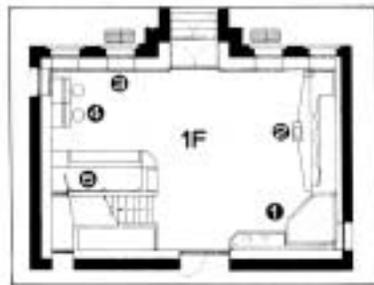
開館当時の新町資料館後ろにあった建物は取り壊されました。



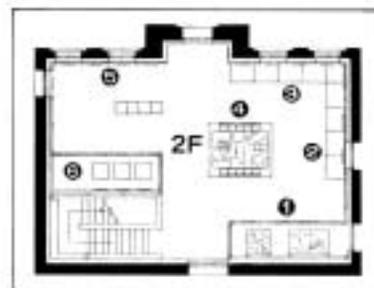
1階展示室



2階展示室



- 1 麻賀多神社の祭礼
- 2 周辺案内ボード
- 3 新町アラカルト
- 4 ビデオコーナー
- 5 案内カウンター



- 1 佐倉道ジオラマ
- 2 開化年表・佐倉
- 3 佐倉の商い
- 4 城模型
- 5 佐倉を訪れた人々
- 6 特別展示コーナー

新町資料館で開催された特別展

新町資料館の展示室を利用して、様々な特別展も開催されてきました。

佐倉考古展
— 旧石器から弥生まで —
(平成2年)



刀剣展
— 刀匠・細川一門の流れ —
(平成3年)



市立美術館 エントランスホール

平成6年～現在

市立美術館は、平成6年に開館しました。旧川崎銀行佐倉支店は美術館のエントランスホールとして利用されることとなり、この建物と調和するように、新しい建物がデザインされました。

この時、旧川崎銀行佐倉支店は、建築された時のように2階が吹き抜けの1階建てに戻されました。また、2階部分には回廊が造られるなど、できる限り建築当時の建物の姿が再現されました。

現在、美術館のエントランスホールとして、日常の世界から美術館といういわば非日常の世界への橋渡し的な役割をこの建物は担っています。



現在の旧川崎銀行佐倉支店内部
2階部分に回廊が復元されました。



また、チバ・アート・ナウなどの展覧会で展示スペースとして利用されたり、ワークショップの作業スペースとして使われることもあります。現在開催中の企画展「フランス・ハルスとハールレムの画家たち」では、オランダのフランス・ハルス美術館やハールレムのまちなかの映像を上映し、企画展への導入として活用されています。



原高史〈汚せない9つの窓〉1998年
チバ・アート・ナウ'98より
(撮影：安齋重男)



藤原隆洋〈Beans-BALLOON〉1999年
チバ・アート・ナウ'99より
(撮影：内田芳孝)

佐倉の移り変わりをずっと見つけ続けてきた旧川崎銀行佐倉支店。ちよつと立ち寄ってみてはいかがでしょう。また、旧川崎銀行佐倉支店についての詳細は「佐倉市史研究」第7号をご覧ください。